

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1070700255		
法人名	社会福祉法人ポプラ会		
事業所名	グループホームタンポポ		
所在地	群馬県館林市田谷町1268		
自己評価作成日	平成25年1月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/">http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成25年1月31日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

・タンポポでは、旬の食材を使用したバランスの良い献立と食欲をそそる美味しい料理の提供に力を入れています。入居者・家族・職員と一緒に食卓を囲み、会話が弾む楽しい食事の時間となっています。  
 ・ホーム内は季節感なる環境作りを目指し、草花を豊富に揃えており、入居者の皆さまに大変喜ばれています。  
 ・庭の菜園で作った採れたての野菜を入居者に提供しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

入居者・家族・地域・タンポポに関わる全ての人達との絆を大切にする理念を掲げ、母体病院や同一敷地内にある特別養護老人ホーム・ケアハウス・短期入所事業所等との連携のもとに、各種行事・防災訓練・研修等を合同で実施すると共に、特別養護老人ホームに勤務する看護師の支援及びタンポポ入居者が特別養護老人ホームにある無料喫茶室の利用など、法人が設置する施設の有効活用や施設間の協力関係を築き、家庭的な環境の中でその人らしく笑顔のある生活を目指す理念の実践に向け支援している。職員は入居者2~3人を担当し、介護計画の作成・見直しを主体的に行い、その意識は担当入居者以外の人にもおよび、「申し送りノート」の活用により、職員全てが入居者に対する共通認識を持ちながらその人らしい生活が出来るよう支援している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的な環境の中で、その人らしく笑顔のある生活を目指す」 「入居者・家族・地域、タンポポに関わる全ての人たちとの絆を大切にする」 タンポポでは2つの理念を掲げ、毎朝職員で唱和し、より良いケアに向け共有・実践しています	理念を事務室等に掲示し、朝の申し送り時に唱和すると共に、施設長が会議等事ある毎に理念の内容にふれて話すなど、職員は理念を確認し振り返り、共有しながら理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域行事の外出と地域主催の慰問を受け入れ、積極的に交流しています。 庭先とホーム内には四季の草花を入居者と一緒に育て、訪れやすい雰囲気作りと親しみやすい挨拶を心掛けています。	つつじ祭り・菊祭りなどの地域行事に出掛け、地域の人と交流している。敷地内の施設との合同行事や、特別養護老人ホームの無料喫茶室で、他施設利用者や地域の人達との交流を図っている。中学生の吹奏楽の演奏・ボランティアによる民話や踊りを受け入れている。また、民生委員等地域の人から認知症に関する相談に応じるなど、地域貢献にも努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方より、訪問や電話にて認知症に関する相談を受けた際は親身に対応しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議メンバーより要望・助言等の沢山の意見を聴取しサービスの向上に繋げています。 地域の情報交換もサービスの向上につながっています。	メンバーが出席しやすいように、会議は偶数月の第3木曜日16時からと定めている。会議では事業所の活動内容や入居者の状況を報告し、民話ボランティアの継続要望やノロウイルス対策の助言を事業所運営に反映している。また、地域の諸行事の情報を、年間行事計画の作成に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政担当者とは運営の実態を共有しながらサービスの質や課題解決に向けて協議し、サービスの向上に努めています。	市の担当者とは運営推進会議の他、感染症の対策について指導助言を受ける等事業所運営について日頃から連絡を緊密にとっている。また、独居老人の対応について、市・社会福祉協議会と協議し、課題解決に向けて取り組む等市との協力関係を築きながらサービスの向上に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	タンポポでは身体拘束は行っていません。 施設内研修にて身体拘束に関する勉強会を実施しています。 裏口玄関の施錠は家族に説明し、玄関にインターホンを取り付けています。	法人内の研修・県のシンポジウム参加により、身体拘束についての理解を深め、職員間で共有し身体拘束をしないケアに努めている。無断外出者の状況把握と共に、顔写真や身長・特徴等を記載した資料を敷地内の各施設に配布し協力を得ると共に、事業所内でマンツーマンの見守りにより自由な生活が出来るよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士が悩みを相談し合える良い関係を築き、ストレスをためない様努めています。 管理者は職員の介護の様子を観察し、虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在必要な入居者はいません。 権利擁護に関する理解に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、ゆっくりと説明し、納得して頂けるまで時間をかけています。 不安ごとや質問にも答え、安心して頂けるよう心がけています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会にてホームに来て頂いた際には近況報告をし、意見要望を確認しています。 玄関に利用者や家族が意見要望を書面でBOXに入れられるよう準備しています。 職員は意見要望を共有し、話し合いを行っています。	面会時、家族に入居者の健康状態等を報告し、意見や要望を聞き、年1回無記名で家族にアンケートを行い、それらの意見や要望を職員会議で話し合い、介護計画に反映している。重要事項説明書に苦情相談窓口の事業所職員名は記載されているが、外部窓口の表記は無い。	苦情・相談に関する外部の窓口を、重要事項説明書に記載されるよう期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送りや職員会議の時間で運営に関する意見を聞いています。 話し合いの内容を職員の申し送りノートに記入し、活用しています。	吸引器を備え付けること・寝たきりの人はパジャマから着物に変えること等を職員会議で話し合い、決定事項は「申し送りノート」に記録して、読んだ職員はサインし、決定事項を共有し共通した介護に取り組んでいる。職員会議・処遇会議・給食会議は予め年間の基本的な議題が決められており、職員が意見や要望・提案等を出し易い工夫がされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人一人に声をかけ、職員の勤務状況を見ています。 職員の声を聞き、働きやすい環境作りを行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	隔月で施設内研修を実施し、勉強する機会を設けています。 外部の研修にも積極的に参加しており、スキルアップに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	群馬県地域密着サービス連絡協議会主催の研修に参加することで他のグループホームと交流する機会や意見交換を行うことができ、サービスの向上につなげています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の困っていることや要望等、家族を交えて傾聴しています。 やさしく丁寧に接し、不安が軽減でき、笑顔になれるよう、良い関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に安心して頂けるよう、ゆっくり時間をかけ話を傾聴し、信頼関係を築いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネージャーと共に話し合い、その時必要としているサービス利用を検討しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	タンポポでは各人のできることを見極め、役割を持って頂き、互いに助け合う関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	タンポポの行事の際は、家族にできるだけ参加を促し、職員と家族が共に入居者を支援するなかで、本人と家族は素敵な思い出作りをしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の訪問時は大歓迎し、再度訪問しやすい雰囲気づくりをしています。 電話を使用し、関係継続に努めています。 家族に外出協力を依頼し、馴染みの場所に出かけています。	友人が弁当持参で来所し昼食を共にとる、携帯電話で毎夕娘と話す、その他、多くの入居者が年賀状を家族や友人に出している。また、家族に車椅子搭載の自動車を貸与し、美容院・墓参り・親族の法要に出席するなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、互いに支え合い、楽しく過ごせる関係作りに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人・家族と築き上げた関係を大切に、必要に応じて協力しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや意向を傾聴し、その人らしく生活できるよう家族を交えて把握しています。思いを伝えることが困難な場合は観察からタンポポでの居心地を検討しています。	日々の会話のなかで希望や意向を聞き、意思表示の難しい人には声かけにより表情や反応から思い等を把握し、時には家族を交えて本人の希望等を話し合いケアプランに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・担当ケアマネージャー等の協力のもと、可能な限り情報把握に努めています。情報は共有し、日々の支援に役立てています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各入居者に担当職員が付いており、状態を把握しています。日常の記録や申し送りノートを活用し、情報を共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各入居者の担当職員を中心にアセスメント・ケアプラン作成・モニタリングを実施し、カンファレンスを行います。参加できない関係者には事前に意見を聞き、ケアプランに反映しています。	ケアカンファレンスに家族の参加を呼びかけ、6ヶ月毎のモニタリングに基づき、定期見直しを行っている。介護計画の家族の希望欄は家族に記入してもらい、診察の際に医師の意見を聞いている。担当職員が作成した介護計画(案)のコピーを全職員に配布し、ケアカンファレンスで検討し決定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、入居者の日常の様子や状態を記録しています。記録を参考にしながら情報交換し、実践に反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たな問題には、本人・家族を第一に考え、話し合い、アイデアを持ち寄り、可能性・方法を考えます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や警察、消防、ボランティア等と協力し、安全な生活を支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体に医療機関があり、24時間受け入れ体制ができています。 また、他の医療機関とも連携をとり、適切な医療が受けられるよう支援しています。	家族が送迎し1名の入居者がかかりつけ医に受診し、その他の入居者は職員の送迎で設立主体の病院に通院している。入居者が体調を崩した時は隣接の特別養護老人ホームの看護師が対応し、入院した際は必要に応じ病院のカンファレンスに職員が出席し情報交換をするなど、適切な医療が受けられよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体の医療機関の看護師に相談しています。 また、敷地内の特養から看護師が応援に来る体制が整っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はこまめに面会に行きます。 病院関係者に状態を伺い、必要に応じカンファレンスに参加しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から話し合いを持ち、ホームのできる事、できない事を話し合っています。	契約時に重度化した場合や終末期の対応について家族と話し合い、家族の意向を聞き、事業所でできること・できないことについて説明している。また、設立主体の病院が在宅看取りの体制を整えたことから、家族の意向・希望により看取りのための研修を行うこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は急変時や事故発生時にすぐ対応できるよう勉強会に参加しています。 また、併設特養の看護師の協力体制が整っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防訓練を実施し、地域防災協力員にも参加して頂いています。	年2回内1回夜間想定も取り入れ、消防署の指導を受け、同一敷地内にある特別養護老人ホーム、ケアハウス、短期入居・デイサービス事業所との合同の避難訓練を行い、地域防災協力員も参加している。市域全体で行う通報・消火訓練にも職員が交代で参加している。また、運営推進会議に地元消防署長がメンバーとなっており、地域の協力体制も整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、敬意を持って、その人に併せた声掛け、対応を行っています。	法人が行うプライバシーの確保・接遇研修を受講している。声かけは「さん」付けで優しくゆったりと行う、入室の際のノックや声かけの徹底、トイレ誘導は他の人の目に触れないよう注意を払う、入浴時は戸の開閉に気配りを行うなど、入居者の誇りやプライバシーを損ねないよう対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各入居者の状態に合わせ、分かりやすく説明し、自己決定してもらっています。 職員は思いや希望に耳を傾け、共有しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの1日の流れはあるが、各入居者の希望を優先し、その人らしく支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張美容室を利用し、本人の希望するヘアスタイルにしています。 各居室の洗面台には大きな鏡があり、その人らしいおしゃれができるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使用したメニューを豊富に揃え、安全な楽しみある食事を提供しています。 おやつ作りでは準備や片付けを入居者と一緒に行い、各人の力に合わせ取り組んでいます。 毎月、給食会議を行い、食事に関する話し合いを行っています。	折り込み広告を見て何が食べたいか聞き献立に盛り入れ、毎月開かれる給食会で楽しい食事の持ち方・行事食の提供について話し合い、管理栄養士が献立表を作成している。また、専任の調理職員が料理し、見た目も美しく美味しく食べられるよう寿司などは現状のまま出し、目で楽しんだ後に必要な方には刻んで食べられるようにしている。タンポポの創立記念日や夏祭り・クリスマス会等には、家族も参加しバイキング方式の食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員と一緒に食事をしており、食事摂取量・水分摂取量を毎日確認しています。 また、併設特養の管理栄養士の協力体制も整っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し、口腔内を観察しています。 入れ歯はポリドント洗浄しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗やおムツでの不快感を減らすため、定時ケア以外もその人に合わせ、随時行っています。 オムツ仕様車もポータブルトイレを活用し、排泄する機会を増やしています。	排泄チェック表で一人ひとりの状況を把握し、定時の誘導やその人に合わせた声かけにより、トイレでの排泄支援を行っている。また、オムツ使用の方もポータブルを使用し失禁を減らすなど、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士が作成したバランス良い食事と牛乳を毎日提供しています。 必要に応じて排便状態を医師に報告し、指示を仰ぐ場合もあります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎月、変わり湯の日に生のフルーツやハーブを使ったお風呂を準備し、入浴を楽しんでもらっています。 毎日入浴を行っているため、各入居者の希望に合わせるができます。	週3回の入浴は2ユニットが1日おきに交互に行い、気分がのらず入浴しない人は翌日他のユニットの風呂を利用している。また、季節感を体感できるピワ湯・リンゴ湯・オレンジ湯・ユズ湯・菊の花湯等の「変わり湯」を月1回楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人好みの居住空間となっており、安眠できるよう寝具類は清潔にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師より副作用の説明があり、職員が情報を共有しています。 状態変化時は病院へ報告し、連携をとっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事やレクリエーション、クラブ活動を企画し、楽しみある生活を支援しています。 各々の趣味や生きがいに合わせた企画を立てています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	各人に合わせ、安全に外出する機会を増やしています。 家族や地域の方の協力で本人の希望した場所に外出しています。	天気の良い日は付近を散歩する人・家庭菜園の手入れをする人、職員と一緒に事業所で使用する日曜品の買い物に行く人、家族と外食や墓参りに行く人、隣接の特別養護老人ホームの喫茶室に散歩帰りに寄る人・気分転換で日に2回同喫茶室を利用する人など、外気にふれる機会を楽しめるよう支援している。また、花見など季節毎の行事は、地元の人々の協力を頂き行う等の外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望に応じ、所持や使用をしています。毎年、年賀状を一緒に作成し、家族や友人に出しています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を使用する方もおり、自由に電話をかけています。 毎年、年賀状を一緒に作成し、家族や友人に出しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井を高く、木材を使用したつくりの為、その環境を活用した広々と温かく落ち着いて過ごせる空間づくりを目指しています。 ホーム内に季節のお花と作品を飾り、四季を感じることで過ごせる快適な空間となっています。	事業所は、四季を感じることで過ごせる快適空間の提供に力を注ぎ、玄関ホール等にサクラソウやロウバイ等季節折々の鉢花が置かれ、室内にさわやかな香りが漂っている。また、職員と入居者の共同作品である季節を代表する貼り絵作品が飾られ、居心地良く過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にソファを置き、思い思いに過ごせる工夫をしています。 玄関前には草花が鑑賞できるスペースを作っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはなじみのあるものを持ち込んでもらい、自宅に近い自由な環境作りを目指しています。	ベッド・ドレッサーや箆笥等の家具類はすべて個人が持ち込み、子どもや孫の写真或いは縫いぐるみなどの配置や飾り付けは家族と本人が相談して行っている。位牌を置かれている方もいる。また、市内に住む家族も時には泊まる等楽しく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内に手すりを設置し、段差なく安全な環境に注意しています。 玄関にも手すりとはロープを設置しています。		